

# 視察に共産党「排除」

## 神奈川県議会 昨年に続き

### 県議団が批判

神奈川県議会は17日、全八つの常任委員会を開き、今年の県内

外の視察について日本共産党議員団（6人）

だけを別にして行うと賛成多数で決めました。共産党は反対しました。

県議会では、常任委員会の委員全員で県内外を視察する仕組みがあります。「県外」の範

囲には海外も含まれ、財政の厳しさなどを理由に中止していた時期を除いて、毎年一つの委員会が海外視察に行っています。

ところが昨年7月、県民企業常任委員会（当時）で共産党の加藤なを子議員が、水ビジネスの可能性や民間企業支援策調査などを目的とするベトナム視察は「県民福祉の向上

につながらるとは言えな

い」として反対を表明。この発言を他の議員が問題視し、団長会で「共産党とは考え方があまりに違う」として、委員会視察を別に行うと多数で決めました。

この日の各常任委員会で、共産党県議団は「共産党委員を委員会調査活動という活動の一部から事実上排除すること」を意味してい

る」と指摘。県内外視察について正・副委員長に一任するとして採決に反対しました。

共産党県議団は15日、議長に対して、海外視察は多額の費用がかかる上、委員会活動の一環としてあらかじめ制度化する必要性はないとして、海外視察を「県外」の範囲に含む現行制度の見直しを申し入れていました。